

津田左右吉 (つだ・そうきち) 1873～1961

歴史学者 ～建国神話を批判した異端の史学者～

出生 1873年(明治6)10月3日、岐阜県に元今尾藩士・津田藤馬の長男として誕生。

履歴 1891年、東京専門学校邦語政治科卒。1896年より1908年まで教員として関東各地の中学校を転々とする。同年より1914年まで満鉄東京支社嘱託・満鮮地理歴史調査室研究員。1918年、早稲田大学教授(東洋史)に就任。1939年、東京帝国大学法学部講師(東洋政治思想史)を兼任。1940年、『日本上代史研究』など発売禁止・起訴される。1947年、日本学士院会員、1949年、文化勲章を受賞。

事績 日本神代史の研究が有名であるが、同時に思想史、東洋史の分野でも業績を残している。古代史の分野では「古事記」「日本書紀」の批判的研究が有名。「作為説」といわれるもので、「記紀」に書かれた内容は歴史的史実ではない。また神話ではなく当時の政治思想の表現であるという学説である。また、思想史の分野でも『文學に現はれたる我が國民思想の研究』という大きな業績を残した。各時代の文学を通して國民思想の発達を見る立場をとる。

中国思想の影響については否定的な立場をとり、日本文化の独自性を主張した。内発性重視の立場をとるが近代西洋文化に対しては肯定的と評される。儒教思想に関しても「文献学的批判研究の方法を持って徹底的に、漢代にいたる中国古代思想を解剖したところの画期的研究であった」(増淵龍夫)と評される。日本への影響では「儒教=人間性の無視」の観点で中国思想を特殊な否定的なものとする判断が学説の根底にある。そのほか中国仏教に関しても成果を残している。

評価 所謂「津田事件」で本人が日本史上の人物となった学者であるが、時代との関係で評価のぶれが大きい学説。戦前は私学出身の学者ということもあり、帝大中心の「国史」の学会では異端的な存在であった。1940年の出版法違反事件で「國体」(天皇制)と学問の相克を象徴する人物として一般社会に登場。「國体」に反する「思想的大逆」学者か「反ファシズム」の学者かの両極論が生まれる原因となった。戦後、天皇制の擁護論文を雑誌『世界』に発表して物議を醸す。これは進歩派の学者を混乱させることにもなった。同時に反共的立場を明確にしたが、明治人に特有な脱亜論的ナショナリズムの現れと見ることもできるだろう。

代表作

『神代史の新しい研究』 従来の学説と著しく異なった津田史学の端緒といえる著作。当時の学会に画期的な著作として影響を与えた。「古事記」「日本書紀」の神代の部分を検討。全集別巻1に収録。のちの『神代史の研究』(全集第1巻)は別物。

『古事記及び日本書紀の新研究』 神代史に続く神武天皇以降の部分を検討する。全集別巻1に収録。

『文學に現はれたる我が國民思想の研究』 時代を貴族時代、武士時代、平民時代に区分して日本独自の國民思想の発達を追及した大著。戦後に改訂版を出版している。全集別巻2～5に収録。

キーワード 津田事件 1939年ウルトラ國体主義者の蓑田胸喜らが津田を雑誌『原理日本』で「大逆思想」と攻撃。1940年2月10日『神代史の研究』、『古事記及び日本書紀の研究』、『日本上代史の研究』、『日本上代の社会及び思想』(岩波書店刊)が発売禁止処分。蓑田らの告発で津田と出版者の岩波茂雄は出版法違反で起訴され、1942年5月有罪となる。津田は禁錮3月執行猶予2年の判決。控訴するも免訴となる。崇神、垂仁朝を仮定視し、仲哀天皇以前の天皇の存在を疑問視したことが出版法に触れた。

ポイント 天皇制擁護の論文「建国の事情と万世一系の思想」(『世界』1946年4月)の発表はセンセーションをまきおこし、「御論説の発表の齎す政治的・社会的影響が思わぬ方向に向かいはしないか」と憂慮する編集者(吉野源三郎)の津田宛の長大な手紙が同時に掲載される不思議な展開になった。遠山茂樹の『戦後の歴史学と歴史意識』(p34-43)に進歩派からみた詳しい経緯が書かれている。

最期 1961年(昭和36)12月4日、武蔵境の自宅で死去。享年88歳。



白鳥芳郎撮影

Great Works 16

津田左右吉全集 全35巻 岩波書店 1963～89 <081.8 / 22>

解題 著者の学術論文のほかに評論、日記、書簡も収録。改訂によって内容に著しい違いがあるものについては別巻に初版を収録してある。補巻2に年譜、題名索引、著作目録、単行本著作目録を収録。

内容

- 第1,2巻 日本古典の研究上、下 [岩波書店 1948,50年] 「古事記及日本書紀の研究」「神代史の研究」「日本上代史研究」「上代日本の社会と思想」から論文4編を補訂して収録。
- 第3巻 日本上代史の研究 [岩波書店 1947年] 「日本上代史研究」「上代日本の社会と思想」から論文3編を補訂して収録。
- 第4巻 文學に現はれたる國民思想の研究1 [岩波書店 1951年] 貴族文学の時代
- 第5巻 文學に現はれたる國民思想の研究2 [岩波書店 1953年] 武士文学の時代
- 第6巻 文學に現はれたる國民思想の研究3 [岩波書店 1953年] 平民文学の隆盛時代
- 第7巻 文學に現はれたる國民思想の研究4 [岩波書店 1955年] 平民文学の停滞時代
- 第8巻 文學に現はれたる國民思想の研究5 [岩波書店 1965年] 平民文学の時代 (幕末明治時代)
- 第9巻 日本の神道 [岩波書店 1949年] 単行本
- 第10巻 日本文芸の研究 [岩波書店 1953年] 日本文学に関する論文集。
- 第11,12巻 満鮮歴史地理研究1,2 「朝鮮歴史地理」 [南満州鉄道 1913年] ほか
- 第13巻 道家の思想とその展開 [岩波書店 1939年] 「道家の思想とその展開」 [昭2] の改訂版。
- 第14巻 論語と孔子の思想 [岩波書店 1946年] 単行本
- 第15巻 左傳の思想史的研究 [岩波書店 1935年] 単行本
- 第16,17,18巻 儒教の研究1,2,3 [岩波書店 1950,51,56年] 儒教関係論文集
- 第19巻 シナ仏教の研究 [岩波書店 1957年] 中国仏教に関する論文集。
- 第20巻 歴史学と歴史教育 [岩波書店 1961年] 論文集
- 第21巻 思想・文芸・日本語 [岩波書店 1961年] 論文集
- 第22,23巻 論叢1,2 評論集 付録として執筆した教科書を収録。
- 第24巻 自叙傳 自伝と追想を収録。白鳥庫吉傳、津田事件関係の上申書を収録。
- 第25,26巻 日記 明治29~45年と昭和27年の日記を収録。
- 第27巻 日信 大正14年~昭和2年までの鈴木拾五郎夫妻あての日信を収録。
- 第28巻 日本・シナ思想の研究 拾遺論文集
- 別巻1 神代史の新しい研究 [二松堂書店 1913年]; 古事記及び日本書紀の新研究 [洛陽堂 1919年]
- 別巻2~5 文學に現はれたる我が國民思想の研究 (貴族文学の時代) [洛陽堂 1917~21年]
- 補1~2 書簡・補遺

参考文献 ~この人をもっと知るために~

<図書>

- ☞ 津田左右吉 (人と思想) / 上田正昭編
三一書房 1974年 418p <210.01 / 11> 資料番号 10326502
- ☞ 津田左右吉の思想的研究 / 家永三郎著
岩波書店 1972年 610p <121.9C / 86> 資料番号 10201978

<図書(部分)>

- ☞ 「我流」の個人主義 / 齊藤孝著 (昭和史学史ノート)
小学館 1984年 p27-57 <201.2 / 16> 資料番号 12327870
- ☞ 津田左右吉 / 門脇禎二著 (日本の歴史家)
日本評論社 1976年 p165-174 <201.21 / 7> 資料番号 12327912
- ☞ 津田史学の問題 / 遠山茂樹著 (戦後の歴史学と歴史意識)
岩波書店 1968年 p34-43 <201.21 / 3> 資料番号 10315430

<雑誌論文>

- ☞ 「国民という思想」津田左右吉をめぐって / 田尻祐一郎著
季刊日本思想史 (ペリカン) (63) [2003] <Z121 / 130>
- ☞ 津田左右吉, または 1946年の天皇 / 赤坂憲雄著
思想の科学 (思想の科学社) 第7次 (通巻114) [1989.3] <Z051 / 14>
- ☞ 日本古代史の研究と学問の自由 - 森鷗外・三宅米吉・津田左右吉を中心に / 直木孝次郎著
歴史評論 (校倉書房) (通巻363) [1980.7] <Z205 / 5>
- ☞ ある弁護士のあゆみ3 二つの筆禍事件 河合栄治郎事件と津田左右吉事件 / 海野普吉, 潮見俊隆, 松井康浩著
法律時報 (日本評論社) 40(3) [1968.3] <Z320.5 / 4>